



アメリカ合衆国

シアトル

2012年8月～2015年6月
(2020年記 2022年修正)

子どもの年齢 長女: 高1～高3 (16歳～18歳) 現地校

基本情報

気温	夏は30度以上になることはあまりない。朝晩は涼しく湿度も低く、晴天の日が続き、非常に過ごしやすいイメージとしては夏の軽井沢。6～8、9月の夏以外は曇天や雨が続く 真冬は氷点下5度を下回ることもあるが、雪はあまり降らない
緊急電話	警察・救急・消防 911
電圧	120V
水	水道水は飲料可であるが、場所によってカルキが多かったり、タンクが汚れていたりすることがあるのでミネラルウォーターの方が安全

買い物

日本の物	宇和島屋という大きな日系のスーパーがあり、日本の物はかなり手に入る
食料品	宇和島屋で野菜やお菓子類を含め日本のものはかなり手に入るが、値段は高い
日用雑貨	街中にはウォルマート、セーフウェイ、jホールフーズ、トレーダージョーズ等の大きなスーパーがある 宇和島屋では日本の雑貨も扱っている ダイソーもある
学用品	特別なものでなければ現地調達可能 子どもの学校のノート(ジャポニカ等特に縦書き)は日本から持参する方がよい
衣類	ショッピングモールで購入可能 靴は紐タイプのもので、子ども用の靴(小さい子用)はマジックテープ式のを日本から持参すると便利

交通

公共交通	市内をメロと呼ばれる路線バスが走り、車いすやベビーカーでの乗り降りもできる 路線バス以外にも何種類かのバスが走り、ストリートカーも一部区間走っている リンク・ライトレールはシアトルからタコマ国際空港を結ぶ新型旅客電車で現在はシータックからノースゲートまでの運行であるが、徐々に拡大されていく予定
運転免許	日本の運転免許を持っている場合は、学科及び実技の試験が免除される 日本の運転免許を持っていない場合は、現地で取得できる ソーシャルセキュリティ番号が必要になる 車がなくてもバスで移動は可能だが、かなり不便

住居

住宅事情	最近は一軒家、タウンハウスともに不足していて、家賃は非常に高い 月々の家賃だけでも高い上に、同じ家に住んでいても毎年家賃が上がる
日本人が多く 住むエリア	シアトルのダウンタウンには多くの企業が存在し、単身者も多い レッドモンド、イサクア、カークランドにも日本人は多いが、一番多いのは日本語補習校のあるベルビュー地区である
使用人	基本的にはいない
治安 セキュリティ	悪くはないが、注意しなければならない場所はある 車上狙いや置き引きは頻繁に発生する

教育

通った学校	サマミッシュ ハイスクール (Grade 10~12)
通った学校の 詳細	ベルビュー地区にある公立高校 母国語が英語ではない生徒の数が非常に多く、生徒の国籍も様々。 従って英語がわからないことがどういふことなのかを理解してくれる先生が多く親切に指導してくれる 日本の高校とは異なり、ホームルームをもたず生徒は自分が選択した授業の教室に移動しそこで授業を受ける 授業は基本的なものはどの学校でも同じだが、学校によって看護、ロボット、料理、自動車整備等の授業を選択することができる 成績はコンピュータ管理されており、提出物や成績は自分で日々確認することができる あと少しで上の成績がもらえるというような場合は、積極的に先生に掛け合って追加のレポートを提出したりすることによってあげてもらえたりもする 本人の努力を非常にかってくれる 近くを走る路線バスもあるが、本数も少ないので、多くの高校生が16歳になると免許を取得し、車で通学卒業に必要な単位としてボランティアがある
塾 家庭教師	日系の塾もある 現在はオンラインによる授業が行われている BCA 土曜学校(幼稚部、小学部、中高部) 家庭教師は伝手で探す人が多い 海外子女向けオンライン家庭教師もある
習い事	個人の興味に応じて各家庭で対応
アドバイス	大学進学に関して、SAT のスコアが重要になってくるのでその勉強や、日本の大学に帰国卒で受験をする予定がある場合は TOEFL のスコアを上げておくことが大切なので、高校在学中にその勉強をすることをお勧めします。シアトルには高校生まで通える補習校があります。日本の高校生が1週間かけて学ぶことを土曜日1日で学習しなければならないので現地高校の勉強も忙しくなる中通い続けることはなかなか難しいですが、日本語でおしゃべりをし、日本の勉強ができる場所として貴重な存在になっています。学校内には図書館があり、様々な種類の日本の本が借りることができます。

病院

医療事情	自分の加入している保険に従ってプライマリーケア・ドクター(ホームドクター)を見つける 一般的な病気であればこのドクターが診察する
------	---

	より専門的な診察が必要であれば専門医を紹介してもらえる 医師の診察には基本的には予約が必要 自分の加入している医療保険で医療費がカバーされるのか(またはどのくらいの割合でカバーされるのか)の確認は必ず必要 突然の病気のときにはウォークインで見てもらえる先生もいる
日本人医師	多くの病院で日本人の医師や日本語が話せる医師がいたり、通訳をつけてくれたりするが、緊急の場合には不可能なこともある
薬品	医師の処方箋無しで購入できる薬は風邪薬、ビタミン剤、栄養剤、頭痛薬、鎮痛剤などの一般的なもののみである 市販の薬は年齢に従って服薬する量が示してあるが、体重が目安となっているので、体重の軽い日本人には効果が強すぎる場合がある 予防注射は薬局で受けることが可能

交流

日本人	まとめて住んでいることはなく、それぞれの事情によって居住地は広く分散している 地域のコミュニティーセンターのような場所で英会話が勉強できるので多くの日本人が集っている ベルビューカレッジという大学の集中英語コースに通って英語の勉強をする人もいる 補習校つながりでの日本人同士の交流も盛んである
現地の人	積極的に外に出ていけばいたるところで交流ができる スーパーマーケットの掲示板にも様々なコミュニティーへの参加を呼びかける掲示がある
駐在外国人	多種多様な国籍の人々が生活しているので多くの場所で知り合えるチャンスがある

伝えたいこと

私たち家族は娘が高校1年生の夏にシアトルへ赴任しました。お誕生月の関係で、本来なら11年生への編入ということになるはずだったのですが(高校は9年生から12年生までの4年間)娘は英語が苦手でもあり、現地の高校を2年間で卒業するのは難しいだろうということで1年落として10年生に編入しました。

今まで英語を勉強していた環境からいきなり英語で勉強をしなければならなくなり、苦労しました。長い文章を読んだレポートや、数学の宿題等で帰宅後も4~5時間勉強してもまだ出来ないことも多く、先生に直談判をして宿題の量を減らしてもらったりすることもよくありました。日々の勉強以外にも卒業の為に合格していなければならない州のテストも現地で生まれ育った子どもたちと同じように受けて合格しなければならず、高校生の子どもを連れての赴任の大変さを日々実感していました。

しかし、主要科目の勉強以外にも自分の興味のある分野の勉強を選択することができ、日本の高校では出来ないような経験もできました。娘は看護のクラスをとり、実習で大きな病院へ行かせてもらったり、理科の勉強の一環でアメリカのガン治療の研究をしている日本人の方であってレポートを書いたりスケールの大きい勉強をするチャンスに恵まれました。

スポーツに力を入れている子供達も多く、大きな試合に出場したり学校のオーケストラに入ってニューヨークのカーネギーホールで演奏する機会に恵まれた子供達もいました。

高校生を連れて赴任することはもちろん本人の希望がなければ難しいですが、現地の高校生活を経験できたことは娘の一生の宝となっていますし、家族で駐在し、喜びや苦労を共にできる幸せは親冥利に尽きると思います。

子供が大きくなっていても是非子連れで駐在されることをお勧めしたいと思います。